

コロナ禍でも

自然災害は待たなし!!



新型コロナウイルス感染症の脅威が続いている中でも自然災害は待ってくれません。自然災害の発生を防ぐことはできませんが、事前の備えによって被害を少なくすることはできます。自分自身やまわりの大切な人の命を守るために、日頃から備えておきましょう。

11 住み続けられるまちづくりを

13 自然環境に具体的な対策を

新型コロナウイルス禍での避難行動について

災害が起こったとき、移動に危険が伴う場合や自宅が堅牢な建物の場合、また新型コロナウイルス感染症の影響が深刻な状況下においては、避難所へ避難することが最善の選択とは限りません。

「在宅避難」や「分散避難」も選択肢に含め、それぞれの状況にあった避難方法をあらかじめ考えておくことが大切です。

避難場所の検討

避難所が過密状態になることを防ぐことも重要です。右の図を確認し、可能な場合は「在宅避難」や「分散避難」の避難行動をとりましょう。



災害発生

風水害や地震等により、自宅に浸水や倒壊のおそれがありますか?

安全な場所に親類宅や知人宅がありますか?

《在宅避難》

自宅で安全を確保



《分散避難》

親類宅や知人宅へ避難



《避難所へ避難》

感染予防対策をして避難所へ避難

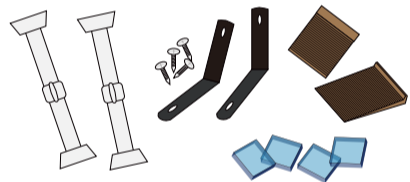


在宅避難をする場合

いつもの場所で安心して避難生活を送れるように、日頃から備えておきましょう。

家具の安全対策

倒れた家具で閉じ込められたり、けがをしないように、家具を固定しましょう。家具が倒れてもけがをしないように、家具の配置を工夫しましょう。



食料品や日用品の備蓄

日頃から食料品や日用品を多めに買いそろえ、使ったら買い足す「ローリングストック」で1週間分を目安に備えましょう。



生活用水の確保

トイレを流したり、物を洗うための水を確保しましょう。



ライフラインの代替

ライフラインが止まってしまうことも想定しておきましょう。



避難所に行く場合

避難所に行くときの準備と避難行動を確認しておきましょう。

持っていくもの

日頃から非常持ち出し品を準備しておきましょう。身軽に避難できるよう必要最小限に絞り込み、両手を使えるようにリュックサックを利用しましょう。



非常持ち出し品や非常備蓄品として準備するものは2月末までに全戸配布する『東住吉区防災マップ(保存版)』で確認しましょう。

近所の人たちへの声かけ

避難の際には、近所の人たちに声をかけて安否を確認しましょう。



家族にメッセージを残す

避難所へ避難した際には、「災害伝言ダイヤル」や「災害伝言板」などを使い、家族にメッセージを残しましょう。



避難所での過ごし方

安全・安心な避難所となるよう、感染症対策を講じています。避難される方々も感染予防に努めましょう。

受付で避難者の健康状態をチェック

避難所の受付では、検温や健康状態の聞き取りを行います。感染予防のため、避難スペースを分離していますので、避難者の健康状態に適したスペースで避難生活を過ごします。



3密(密閉・密集・密接)を避ける

- 十分な換気を行う。
- 対人距離の確保を心がける。
- 密接した状態での会話は控える。



手洗い・消毒等の徹底

避難所の物品は多くの人に触れるため、こまめに手洗いし、手指の消毒を行いましょう。また、マスクを着用し、こまめにうがいしましょう。



問合せ 区民企画課 5階54番 ☎06-4399-9909 FAX 06-6629-4564

